

●大腸がんは身近な病気です

大腸がんは、日本人に最も多いがんの一つです。高齢化や食生活の変化などを背景に患者数は増加しており、年間約15万人が新たに大腸がんと診断されています。一方で、大腸がんは早期発見・早期治療によって治癒が期待できる病気でもあります。便潜血検査や大腸内視鏡検査を受けることで、がんになる前のポリープを発見できる場合もあります。血便、便秘や下痢などの便通異常、腹痛、体重減少などの症状がある場合はもちろん、症状がなくても定期的な検診を受けることが大切です。

～大腸がんの治療～

大腸がんの治療は、がんの進行度によって異なります。

・早期がん

内視鏡治療で切除できることがあります。

・進行がん

手術が治療の中心となります。必要に応じて抗がん剤治療を組み合わせることで、再発予防や治療効果の向上を目指します。

近年は分子標的薬や免疫療法なども登場し、大腸がん治療は大きく進歩しています。

●ロボット支援手術とは？

「ロボット手術」と聞くと、ロボットが自動的に手術をすると思われる方もおられるかもしれませんが、しかし、実際に手術を行うのは外科医です。医師が操作装置（コンソール）に座り、ロボットアームを操作しながら手術を進めます。ロボットは医師の動きを正確に再現し、より精密な操作を可能にする「手術支援機器」です。患者さんのお腹に数か所の小さな穴をあけ、そこにカメラや専用器具を挿入して手術を行います。



【ダヴィンチ手術システムXi(エックス・アイ)】 専用手術器具により、医師の手の動きを正確に再現可能

ロボット支援手術の特徴

- ① 傷が小さい…お腹を大きく切開しないため、傷が比較的小さくなります。
- ② 出血が少ない…細かな血管を確認しながら手術できるため、出血を抑えられる可能性があります。
- ③ 術後の痛みを軽減…個人差はありますが、開腹手術と比較して痛みが少ないことが期待されます。
- ④ 回復が早い…早期離床や早期退院につながる可能性があります。
- ⑤ 精密な手術が可能…鮮明で立体的な画像を見ながら、細かな神経や血管を確認して手術を行うことができます。

●特に直腸がんで力を発揮します

直腸は骨盤の奥深くに存在しています。周囲には排尿や性機能に関わる重要な神経が集まっており、限られた空間の中で正確な手術が求められます。ロボット支援手術では、狭い場所でも器具を自在に動かすことができるため、神経や血管を丁寧に温存しながら手術を行うことが期待されています。

また、がんを確実に切除するための精密な操作が可能であり、質の高い手術につながると考えられています。

★よくある質問★



Q1 ロボットが勝手に手術するのですか？

いいえ。手術はすべて外科医が行います。ロボットは医師の操作を補助する医療機器です。

Q2 ロボット手術は安全ですか？

ロボット支援手術は、十分な研修を受けた医師と手術チームで行います。当院でも安全性を最優先に実施しています。

Q3 保険は使えますか？

はい。大腸がんに対するロボット支援手術は健康保険が適用されています。

Q4 入院期間は短くなりますか？

患者さんの状態によって異なりますが、術後の回復が早くなることが期待されています。

Q5 誰でもロボット手術を受けられますか？

全ての患者さんに適しているわけではありません。がんの場所や進行度、全身状態などを総合的に判断し、最適な治療法をご提案します。

●西和医療センターでロボット支援手術を開始しました

西和医療センターでは、2024年7月より大腸がんに対するロボット支援手術を開始しました。

消化器外科医、麻酔科医、看護師、臨床工学技士など多職種が連携し、安全で質の高い医療の提供に努めています。地域の皆さまが住み慣れた地域で安心して高度ながん治療を受けられるよう、診療体制の充実を進めています。

～ 地 域 の 皆 さ ま へ ～

大腸がんは早期発見・早期治療が大切です。また、治療法も年々進歩しており、患者さんの体への負担をできるだけ少なくする取り組みが進んでいます。検診で異常を指摘された方や治療について不安をお持ちの方は、一人で悩まずお気軽にご相談ください。

私たちは患者さん一人ひとりに寄り添い、最適な治療を提供できるよう努めて参ります。